

学生戦線

社会主義学生同盟
中大支部 発行

沖繩主席公送運動を米軍政打倒 日帝の侵略前線基地化粉碎 斗争へ転化し安保粉砕 の国際反帝斗争に結合せしめよ

学生諸君、現在展開されている「沖繩三大選挙」支援運動は、60年安保の敗北過程を忠実に跡追いつけている。沖繩斗争は言うまでもなく、すべて70年安保粉砕斗争と日本帝国主義打倒と世界革命の内実を示すものであり、その最も重要な焦点としてある。それ故、我々は沖繩人民の斗争を、NATOの粉砕—安保粉砕の方向性を堅持し、今までの斗争の総括をふまえた斗争を組まねばならない。

沖繩人民の斗争の内実と方向性

「沖繩返還」ないし「奪還」論は全ての左翼、革命派諸君の口から吐かれて久しい。彼らが少なくとも社会主義者、社会主義者と称するならば、返還、奪還などと言つてほしいなことはないだろう。何故なら、最低限、フロレタリアートには祖国はない。ゆたけら。我々に要請されている任務の課題は、この祖國復帰運動の根柢を探り、その爆露と根本的解決—世界革命の方向性を大胆に指し示すものがないければならぬのである。これは自然発生的な復帰運動はどこにその根柢があり、現在の首席公送でこのような立場を迎えたのであろうか。

オーストラリア政府も米帝国主義の植民地としてあった沖繩は米帝国主義者とスティーリン主義者の古典的支配政策の対立が鋭化した一九五〇年の朝鮮戦争を契機として、米帝国主義の対アジア、対中政策にどうして重要な侵略基地と化し、またベトナム戦争開始によって、増々その重要性が増大したのである。そして今や土庫はほとんど米軍に持ち込まれ島全体が基地であるかのさうな様相を呈している。アスファルトを舗装された道路はすべて軍用道路であり、鉄系網の中には軍事施設、軍団倉庫、軍人宿舎、陸軍病院等々が存在し、アジア最大と云われる嘉手納空軍基地には、河種類もの飛行機が配置され、その丘

くのドブ水は空港の廃由によって汚され、燃えるのである。その上、住民は爆音に悩まされ、学校では度々授業が中断され、生活は完全に破壊されているといつのが現状である。さらにまた、メーヌBやナイキ等のミサイル基地がいたる所に見られる。

このようは沖繩に於ける人民の斗争は、政府政策的に押し付けられた五六年のフライズ動員反対、四頁則費廠の「土地防衛斗争」が昂るかの闘争として行われた結果、広汎な全人民的な斗争へと恒常化していった。

土地防衛斗争を契機として沖繩人民の基地撤去斗争は拡大されたといえ、その指導部の弱体化から至りた此れ弱められた。即ち、政府の沖繩の「地蔵資本」は、世間的に米帝に規定（基地存在）し、何ら資本蓄積し之めよを経過し、その結果、極端に輸入超過資本の超過を主目とし、この解決をせよとされた沖繩メルジョアジが、昂揚する農民、労働者、学生、基地撤去斗争をメルジョアの的に利用し、土地斗争の支頭に立つたのである。そしてまた、この基地撤去斗争の本質をほんら把握しえないところの日本既成革新政党（日共、社会党等）の支部としての沖繩革新団体は、かかるメルジョアジの方向に巻き込まれ、「豊民族支配論」の下にマニキエ、トーホームを叫び、全人民的な基地撤去斗争を反米民族主義斗争にひきずり込んでいたのである。そして、「自治の拡大と祖國との一体化を実現し、民族の繁栄と知土の発展を期し、経済拡大計画の遂行の下に民生の安定と福祉社会の完成する」といふ綱領の下に沖繩資本と技術提携、企業統合を押し進めてきた本エマルジョアジの真意にあつては、その反米民族主義といつ至少は路線故に、何ら対応出来ず、労働者、学生、農民の基地撤去斗